

Kiko

ボン

11月
5日

気候ネットワーク

〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上ル高倉ビル3F

Tel:075-254-1011 / Fax:075-254-1012

E-mail:kikonet@jca.apc.org http://www.jca.apc.org/kikonet/

〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-7-3 西川ビル2F

Tel:03-3263-9210 / Fax:03-3263-9463

E-mail:kikotko@jca.apc.org

気候ネットワークは、地球温暖化対策に取り組む市民のためのネットワークです。

「Kiko」は、温暖化問題の国際交渉の状況を伝えるための会期内、会場からの通信です。

<私たちはめざします>

(1)「抜け穴」をふさぎ、京都議定書の早期発効を！ (2)日本政府はまず6%削減できる国内対策を！ (3)政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！ (4)地球規模の公正のため、南北のNGOの連帯を！ (5)みんなで協力して温暖化防止を！

COP5 閉幕

何がどこまでどうなった？

COP5は、「ブエノスアイレス行動計画の実施」という議長決議を採択した。さらに、全部で20以上の決議を採択した。交渉は遅々として進まないと言えども、細かい部分についての議論が行われ始めたのも事実だ。決議は、COP6までの作業計画や要請事項を示す程度にとどまっているものが多い。

・ブエノスアイレス行動計画の実施
(FCCC/CP/1999/L.14)

議長決議の採択に当たっては、日本が、COP6までの交渉をサポートするファシリテーターを指名するべき、という発効を実現するための積極的な提案をし、アメリカ、カナダを含む多くの国の支援を受けたが、更なる交渉プロセスを作ることへの中国、サウジなどの反対で議長提案に反映されなかった。

・京都メカニズム

(FCCC/CP/1999/L.15)

議論が意見交換に終始し、大事な交渉の機会を先送りしたことは大きく懸念される。しかし一方で、ブレインストーミング形式にして、途上国を含めて口を開かせることに成功した、とチャウ議長の手腕を評価する声も大きい。しかし、これらは決して「交渉」ではない。今後の過密なスケジュールを順調に進める必要性はより高まっている。なお、採択された決議は、今後の作業スケジュールを示しただけのシンプルなもの。2000年1月31

日までに各国に更なる意見を求め、議長がテキストを作成する。6月のSBSTAの前にワークショップ、専門家を含めたミーティングを開催し、COP6で決定する。

・AIJ(共同実施活動)(FCCC/CP/1999/L.13)
条約に基づいてレビューすることになってきた共同実施活動については、来世紀に入っても、地理的な不平等に配慮しつつ継続して行うことが決定した。しかし、議定書における共同実施・クリーン開発メカニズムとの関係については触れない形となった。

・遵守制度(FCCC/CP/1999/L.21)

中でも実質的な議論が進んだ議題であるが、議長では、2000年3月までに意見を求め、具体的な議論を詰めるのはこれから。議長では、更なる進展の必要性が強調され、COP6までに遵守制度を確立することが定められた。

・吸収源(FCCC/CP/1999/L.16)

森林吸収源については、IPCC特別報告書に関連してデータを出すことを日米などは渋っていたが、ようやく前に進むことになった。議長採択の際には日本だけが反対した。理由は、決議案に「最初のドラフトをCOP6に出す」と書かれていたため。COP6で議長が出来なければ発効の目処が立たないばかりか、3条4項の活動を第1期に入れられない、と焦った日本が反発したのであった。最終的に妥協案が議長された。日本は2年前COP3の終盤で、3条4項の最後に「追加的活動を第1期約束期間に適用することを選択できる」という内容を無理矢理追加した経緯があるが、この時の主張が再度表面化したと言える。

・4条8・9項(適応措置と補償)

(FCCC/CP/1999/L.22)

サウジアラビアらが、経済補償問題と悪影響への適応措置をパッケージにすることを求めていたが、決議では、2つのワークショップをそれぞれ持つことになり、気候変動の悪影響を受ける小島嶼国への対応が進められることが可能になった。

・能力開発(FCCC/CP/1999/L.19,20)

途上国と経済移行国について別々に決議した。途上国の能力開発については、必要となる能力開発のリストが付記された。

・国際燃料(FCCC/CP/1999/L.17)

国際航空・燃料や、船舶で、IMO(国際海事機関)とICAO(国際民間航空機関)とに削減の手法について検討する項目案が中国、産油国から強く反対され、最終的にはさらに消極的な決議となった。

などなど、決議の数は多いが、中身は非常に薄い…。()内は文書番号。URLは、<http://cop5.unfccc.de/>

Fossil of the COP5

Fossil of the Dayの表彰最終日の11月4日、ノミネートされたのは、議長決議に対して唯一採択に反対したサウジアラビア。これまで途上国の「意味ある参加」を強調しているにも関わらずサウジを全く教育できなかった米国。Fossil of the Dayの表彰に使用された石炭に対し多額の補助金を拠出している開催国ドイツである。サウジは、Fossil of the Dayに選出されるとともに、会期全体を通し交渉の阻害に最も貢献したとして、Fossil of the COP5の不名誉にも輝いた。

1999年11月5日

リオ+10での発効を確実に - 求められる国内対策の見直し -

気候ネットワーク代表 浅岡 美恵

1、COP5は11月5日、二週間にわたる会期を終える。COP5では、COP4で採択された、COP6で京都議定書の発効の準備を完了するための「ブエノスアイレス行動計画」を思い起こし、論点ごとに各国の主張を整理し、「ブエノスアイレス行動計画の実施 (Implementation of Buenos Aires Plan of Action)」を採択してそのプロセスを完成する道筋をたてた。いまだ実質的審議が始まったとはいえないが、京都会議から2年を経過してようやく、発効のための関門であるCOP6に向けて動き出した。

2、COP5での最大の進展は、閣僚級会合で京都議定書の発効期限を2002年の“リオ+10”とする流れが生まれ、COP6の重要性を浮かび上がらせたことである。COP6(2002年11月13日から24日)までに、6月と9月に2回の準備会合が設定されている。ここに至るまでに、NGOのはたらきかけや会議初日のドイツ・シュレーダー首相、アナン事務総長、アルソガライCOP4議長による“リオ+10”目標の呼びかけのリレーにEU各国など多くの大臣がこれに呼応して、政治的モメンタムを高めた。日本も、山本一太外務政務次官が2002年の発効が不可欠と述べて、その流れを加速する役割を担った。

しかし、残された課題は山積みであり、今後のステップは最後まで胸突き八丁の連続といえる。COP6で批准の準備を完成させるとの政治的意思を明確にし、発効へのプロセスを強く後押しする政治宣言を採択することが求められた。残念ながら政治宣言の採択には至らなかったが、決議では、シシュコCOP5議長に、今後の交渉プロセスを強化するために必要なあらゆるステップを採ることを求めている。日本政府は、前向きに議論に参加することによってその協力を惜しむべきでなく、また、今後の補助機関会合で、“リオ+10”というこの条約にとって象徴的なタイミングを活かすべきことを呼びかけ続けるべきである。

3、今回の会合で、日本がCOP6および補助機関会合でリーダーシップを発揮するために、原発増設と議定書3条4項による吸収源の範囲の拡大などに大きく依存した日本の6%達成シナリオを早急に見直す必要があることも明らかになった。

まず、今回の閣僚級会合で、オーストリア、デンマーク、ドイツ、ギリシャ、アイルランド、イタリア、スウェーデン、ノルウェー、ハンガリー、ナウル、インドネシア、シンガポール、ツバルなどの大臣が明確に、原発はCDM、JIの対象とはなり得ないとの立場を明らかにした。先般の東海村での臨界事故も少なからず影響を与えているであろう。最近の世論調査によっても2010年までに原発20基増設の計画は実現可能性が全くない。内外で原発に依存した削減計画は破綻している。

また、日本は京都議定書第3条4項の吸収分で数値目標の3.4%と皮算用をし、第3条4項を第1約束期間に盛り込むためにしばしば議事を中断させた。しかしながら、2000年5月に予定されているIPCCの特別報告によれば、極めて不公平であるだけでなく、京都議定書の数値目標を無意味にすることが明らかになった。3条4項による吸収源は第1約束期間には組み入れるべきでない。COP6に向けて、日本が皮算用を可能にする決定に固執することは、COPの議事を混乱させるだけである。

4、日本がCOP6の成功にリーダーシップをとるために、目標達成を吸収源や原発、排出権取引などに依存するのではなく、実効性のある政策措置を市民とともに策定して早期に実施に移すことが不可欠である。日本など先進国の国内措置を進めることなくして、途上国の理解も得られない。その上で、公正公平な京都メカニズムの制度設計、強固な遵守の仕組み、第3条4項吸収源の排除に向けて、国際交渉への日本の積極的な貢献を期待する。

会議場の周辺で

巨大風力発電機出現！COP5会場となっているマリタイムホテルの庭に40mのローターを持つ風力発電機が登場。ヨーロッパ風力エネルギー協会などが設置したもの。白い威容を誇っている。

焦る原発推進派？ その前に突如現れたのが青い風船。ハイレベルセグメント(閣僚級会合)において各国大臣から原子力をJI・CDMから排除すべきとのスピーチが続出した翌日、青い風船をつなげた(ちゃちな)飾りにいざ知られた「原子力は温暖化解決の1手段だ」とする横断幕が飾られた。焦りを感じた、予定外のアクションか？

Kiko COP5 通信 No.3

1999年11月5日発行

(COP5の期間中に発行します)

発行/編集 気候ネットワーク
浅岡美恵、足立治郎、平田仁子